

**Technology to Inspire Innovation**

# **2016年度中間決算及び 通期見通し説明会**

**2016年10月26日**

**6807 日本航空電子工業株式会社**

**I. 2016年度中間決算**

**II. 2016年度通期業績見通しと取組み**

# **I . 2016年度中間決算**

## **(2016年4月～2016年9月)**

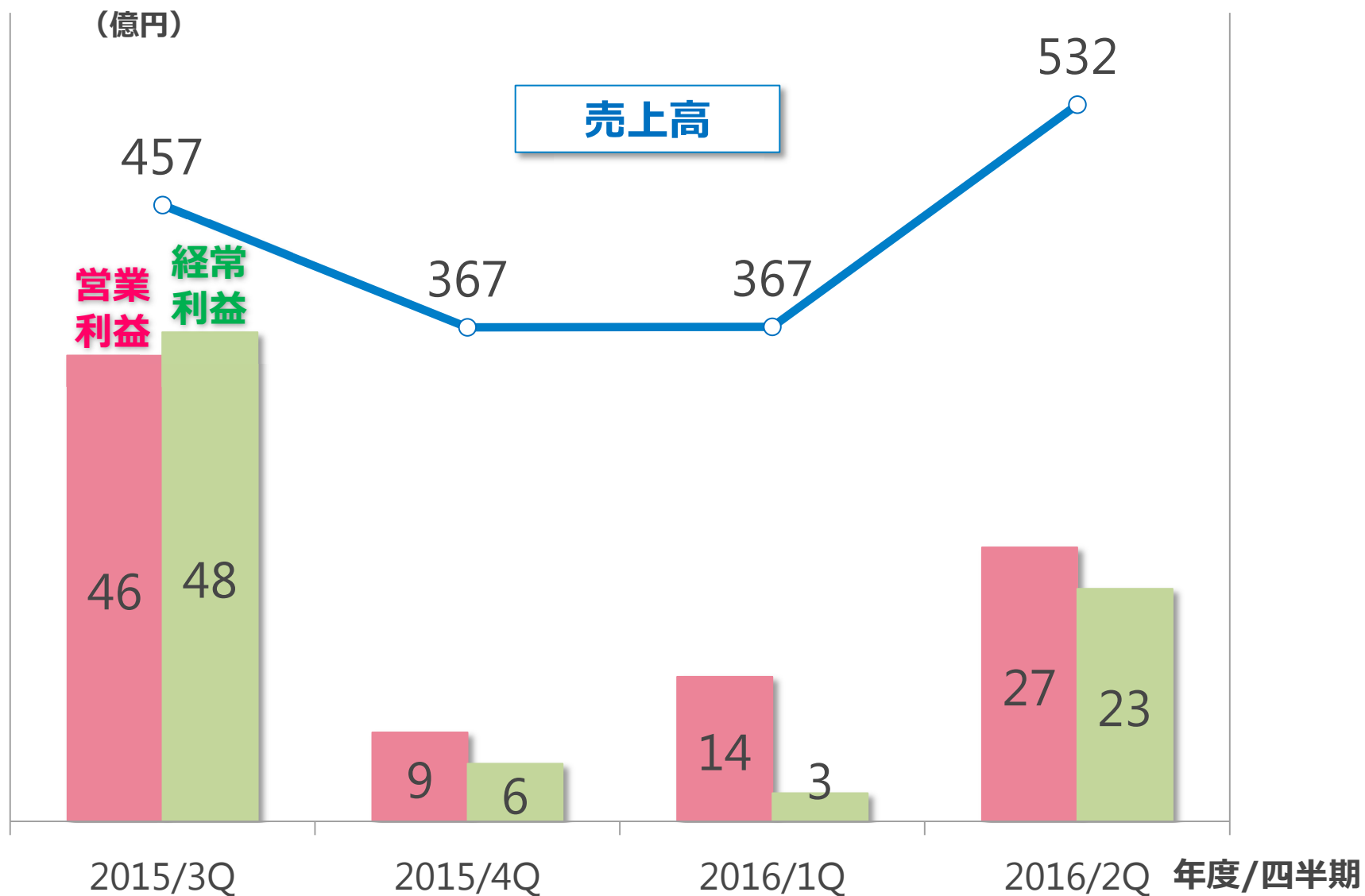
※ 本資料では、原則として金額は億円単位に四捨五入しておりますので、個別数値と合計値・増減額が一致しない場合があります。

# 1-1. 業績概要

	2015年度		2016年度	前期比	
	上期	下期	上期	15下/16上比較	
売上高	971	824	899	(億円) 75	(%) 109%
営業利益 対売上比	124 12.8%	55 6.7%	41 4.6%	-14	75%
経常利益 対売上比	115 11.8%	54 6.6%	26 2.9%	-28	49%
純利益 対売上比	85 8.8%	40 4.9%	21 2.3%	-19	52%
為替レート (円/US\$)	121.9	118.4	105.2	(期中平均)	

2016年7月予想値	
予想値	差異
(億円) 930	(億円) -31
52	-11
36	-10
27	-6

# 四半期売上・利益推移



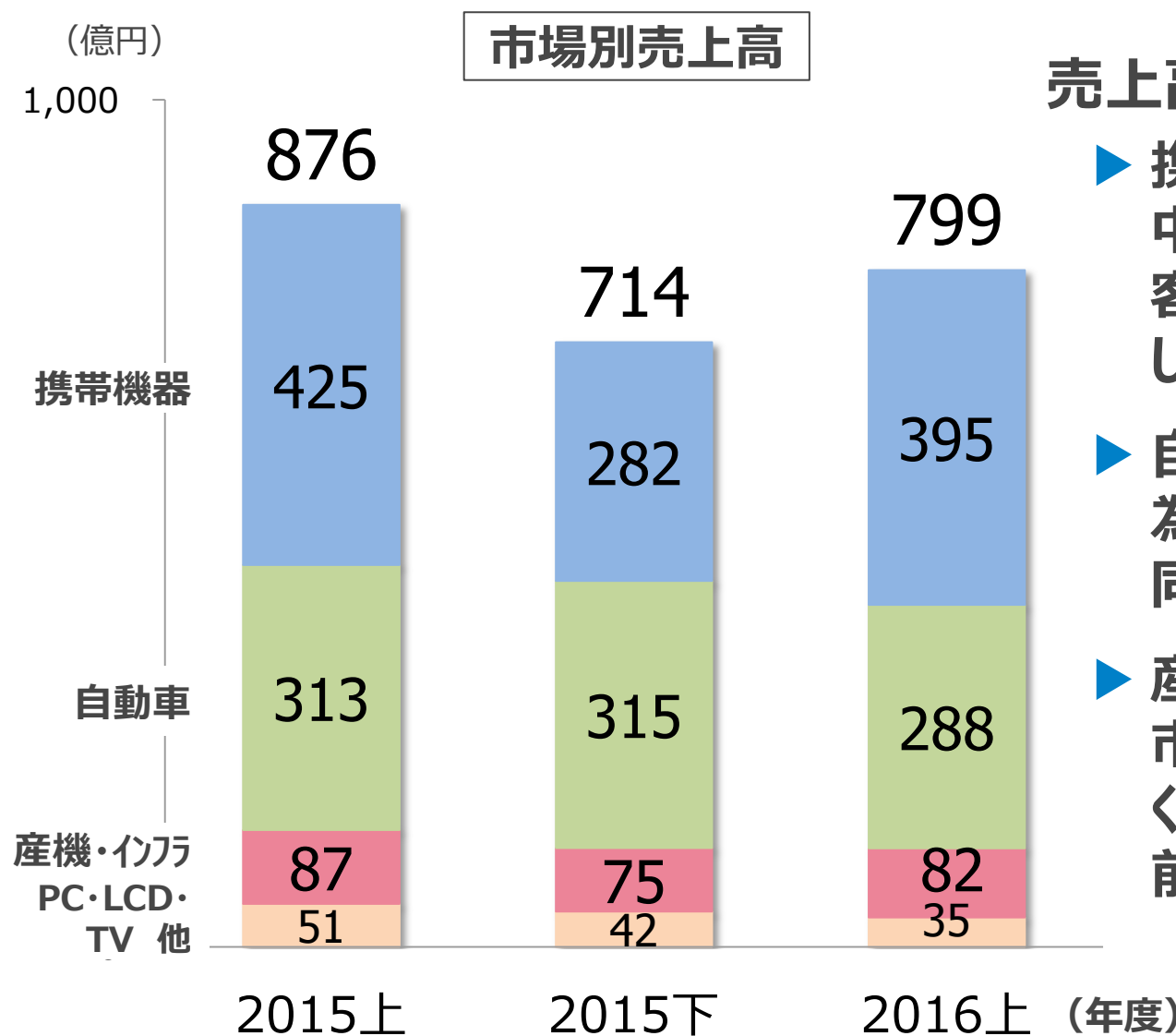
# 1-2. 全社市場別売上高

	2015年度		2016年度		前期比	
	上期	下期	上期		15下/16上比較	
	(億円)	(億円)	(億円)	構成比	(億円)	(%)
携帯機器	425	282	395	44%	113	140%
自動車	342	343	315	35%	-28	92%
産機・インフラ	127	119	123	14%	4	104%
その他	77	80	66	7%	-14	82%
計	971	824	899	100%	75	109%

為替レート (円/US\$)	121.9	118.4	105.2	(期中平均)
-------------------	-------	-------	-------	--------

海外売上高	714	553	622
海外売上比率	73.5%	67.2%	69.2%

## 2-1. コネクタ事業

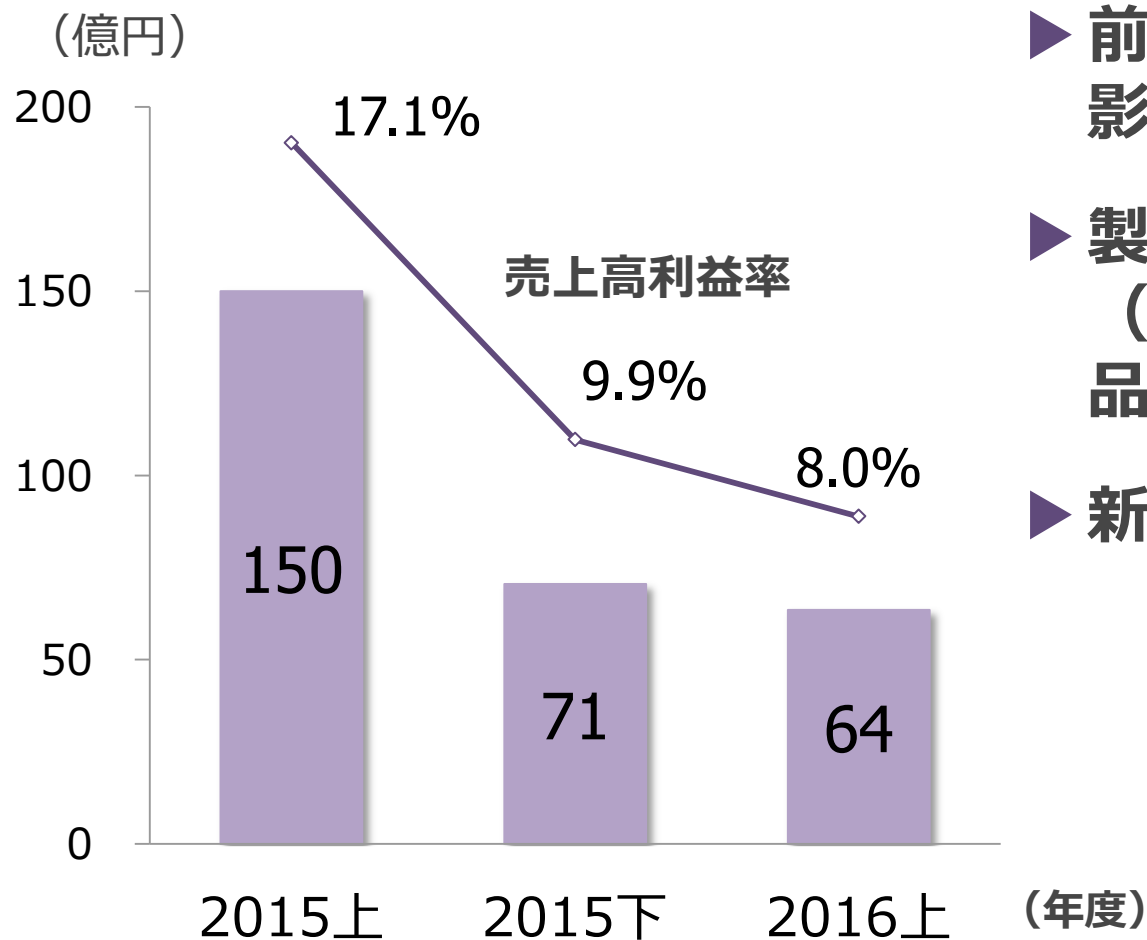


売上高：前期比112%

- ▶ 携帯機器：  
中国スマホ、北米顧客が計画どおり推移し、前期比増
- ▶ 自動車：  
為替の影響を除くと同期比増収
- ▶ 産機・インフラ：  
市場全体の停滞が続く中、拡販成果により前期比増収

## 2-1. コネクタ事業

### 営業利益

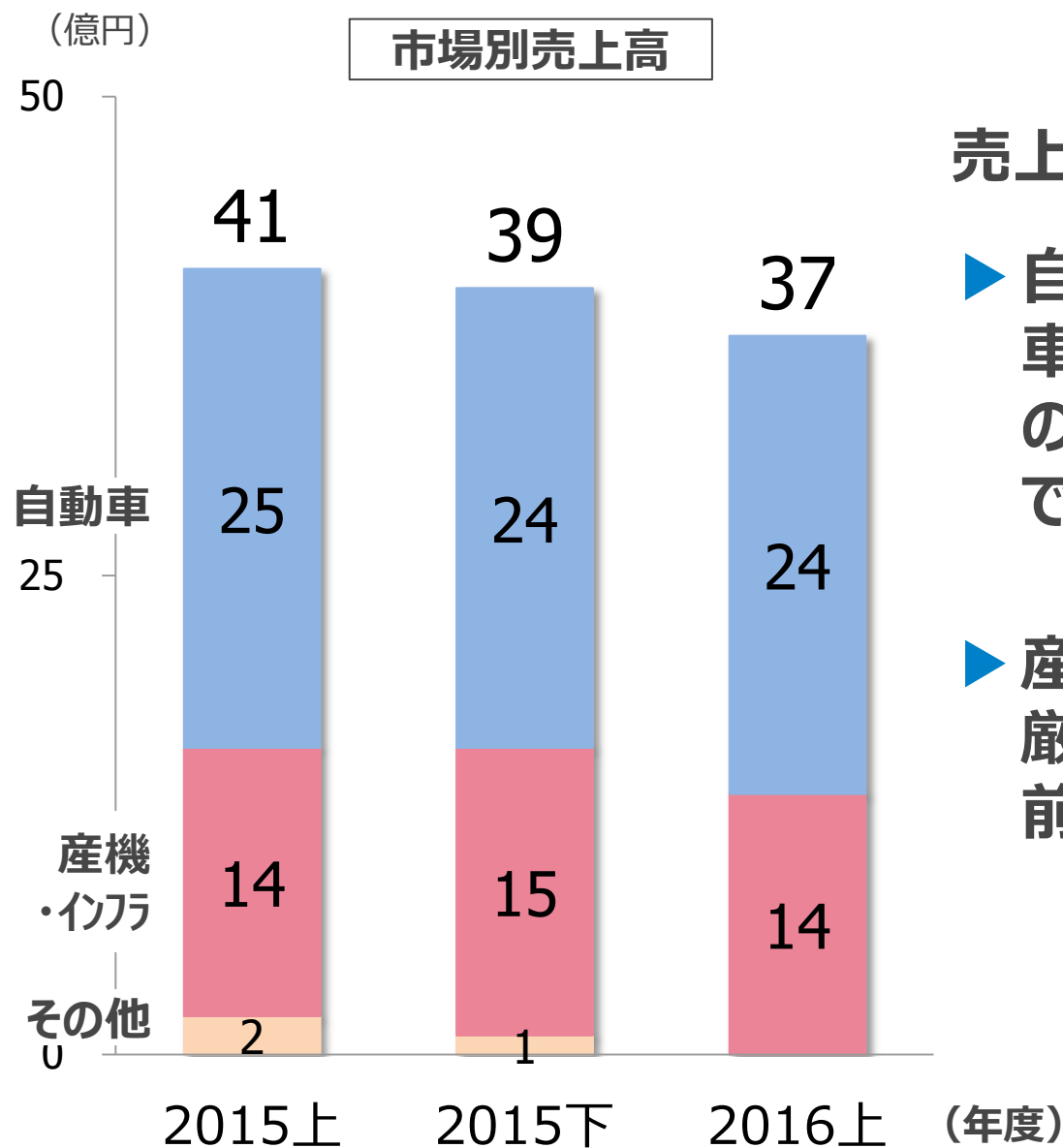


営業利益：前期比▲7億円

- ▶ 前期比13.2円の円高の影響
- ▶ 製品構成の変化  
(外部購入部品の多い製品の増加)
- ▶ 新製品の開発費用増など

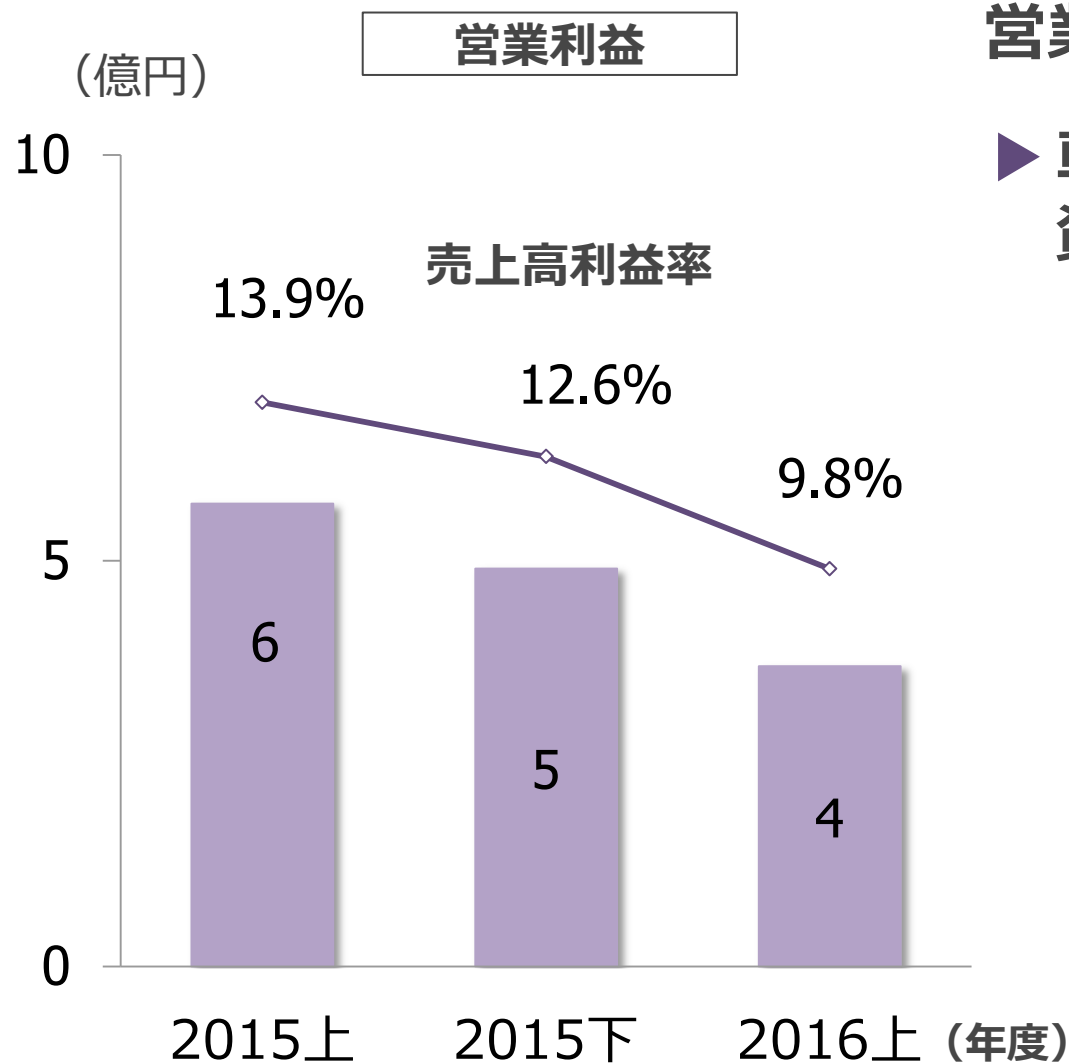


## 2-2. UIS事業



売上高：前期比96%

- ▶ 自動車：  
車載向け静電タッチパネル  
の新規採用車種の端境期  
であり、ほぼ前期並み
- ▶ 産機・インフラ：  
厳しい市場環境が続き、  
前期比減収

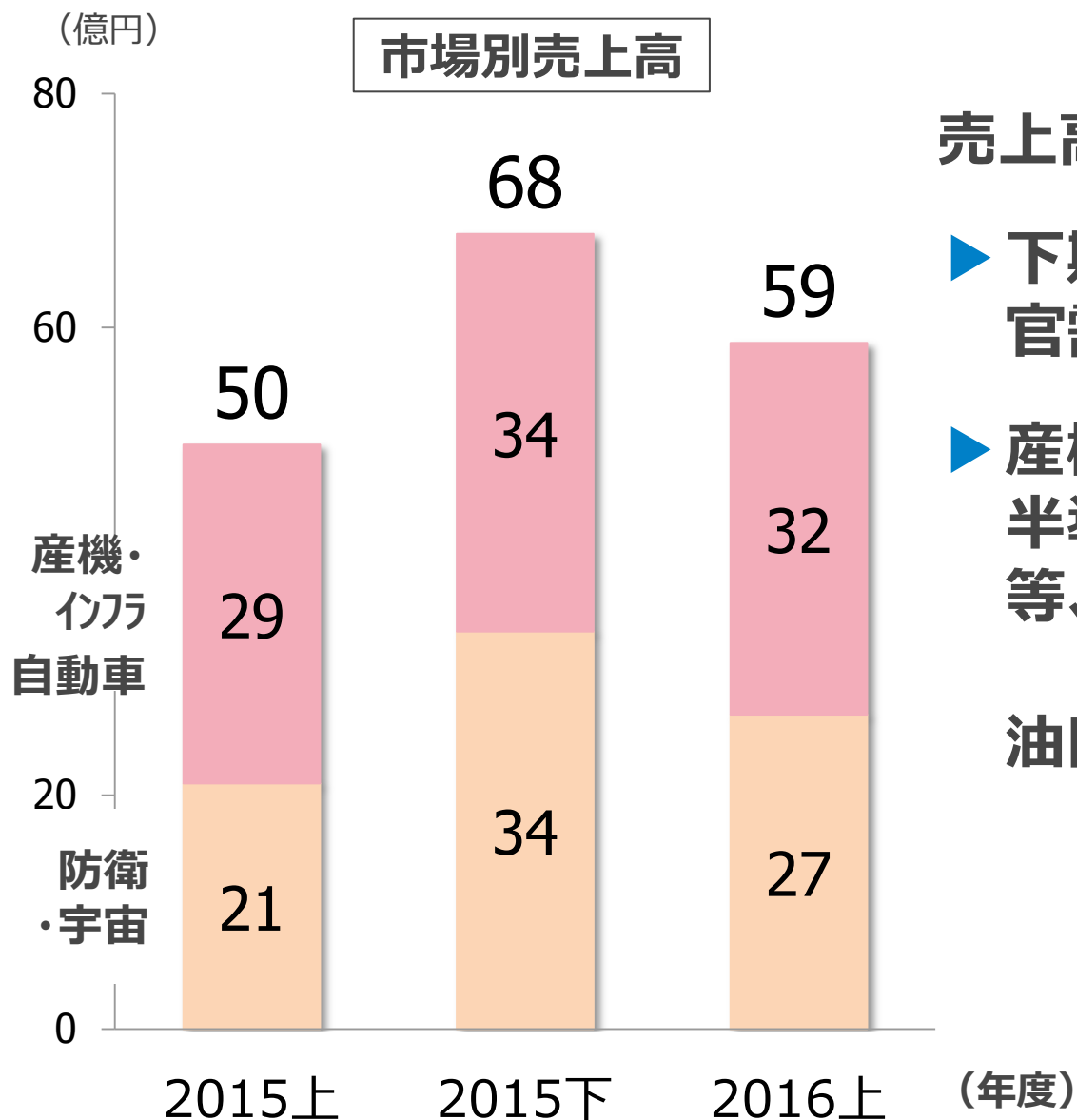


営業利益：前期比▲1億円

▶ 車載タッチパネルの設備投資に伴う償却費増

- 来年度以降の事業拡大に向けた新規ライン構築・試作開始に伴う償却負担増

## 2-3. 航機事業



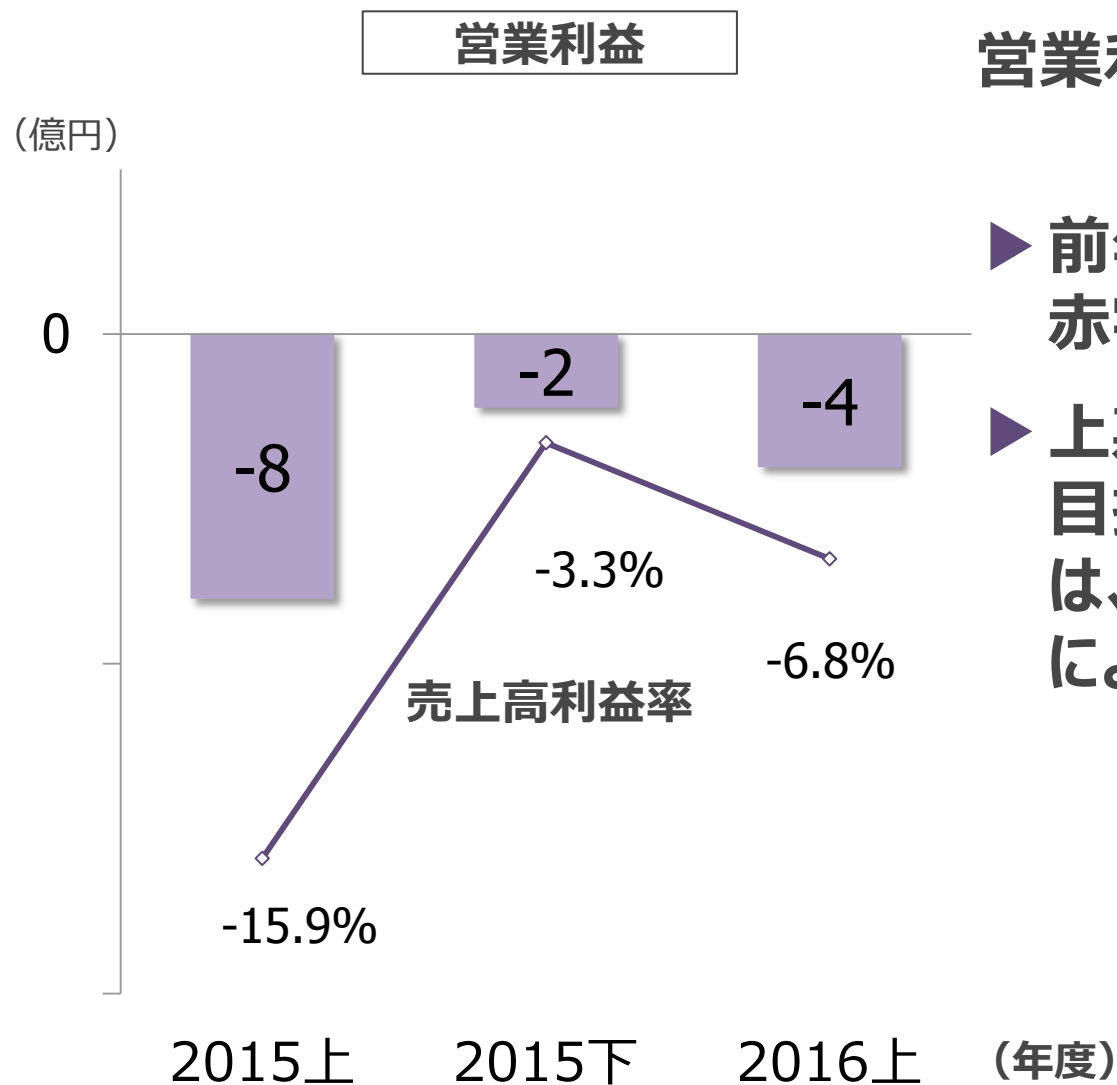
売上高：前年同期比116%

▶ 下期偏重の季節性の中、  
官需・民需とも同期比増収

▶ 産機・インフラ（民需）：  
半導体露光装置向けLM  
等、マシナリが増収

（LM:リニアモータ）

油田掘削向けは需要停滞

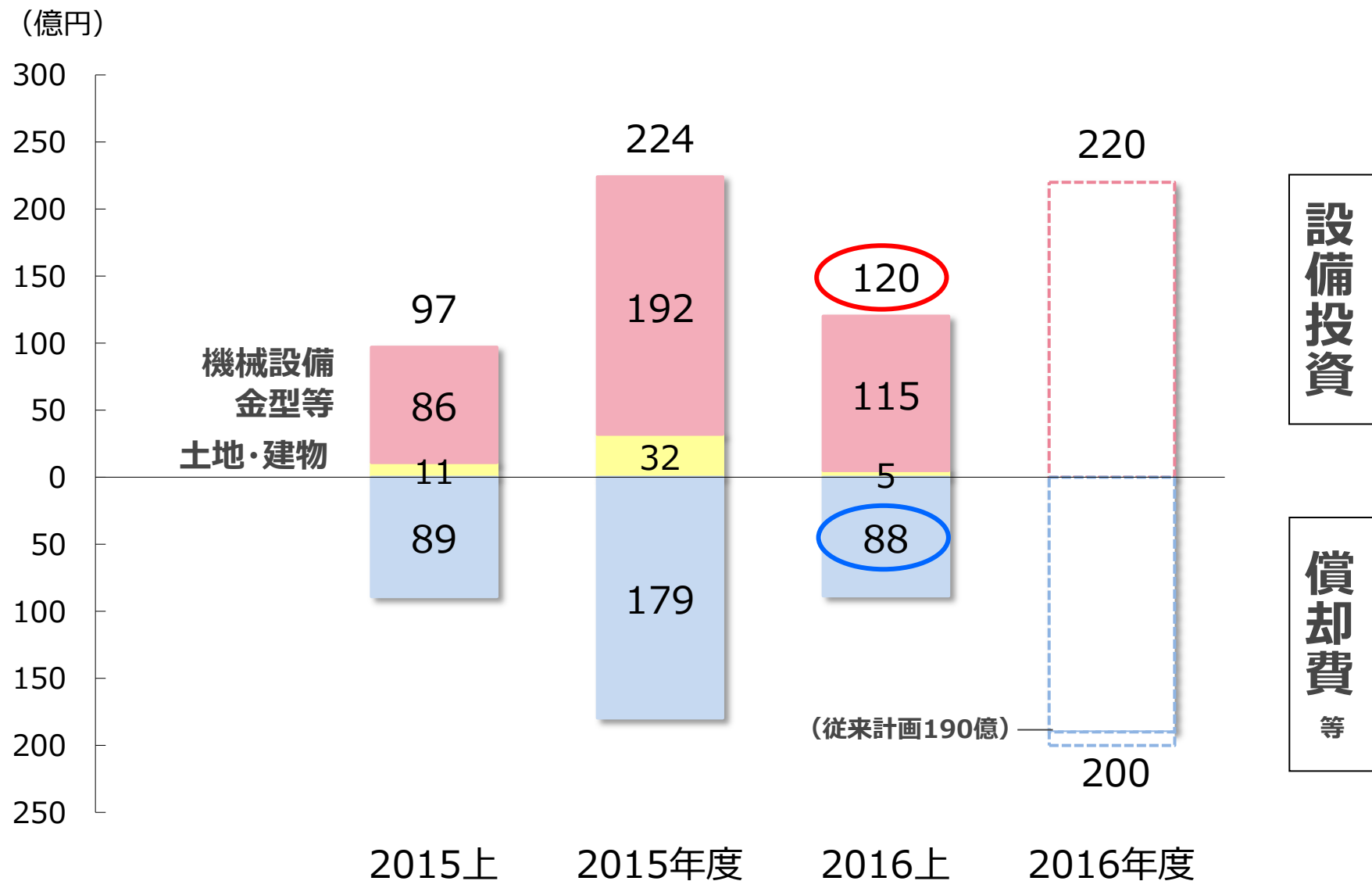


営業利益：

前年同期比+4億円

- ▶ 前年同期比増収により、赤字幅半減
- ▶ 上期ブレークイーブンを目指した当初計画に対しては、売上の計画比減少等により届かず

### 3. 全社設備投資・償却費



## **Ⅱ．2016年度通期業績見通しと取組み**

### **（2016年4月～2017年3月）**

# 1-1. 全社業績見通し

	2015年度	2016年度修正予想			
		上期実績	通期予想	前年比	
		(億円)	(億円)	(億円)	(%)
売上高	1,795	899	2,070	275	115%
営業利益	179	41	125	-54	70%
対売上比	10.0%	4.6%	6.0%		
経常利益	169	26	100	-69	59%
対売上比	9.4%	2.9%	4.8%		
純利益	125	21	75	-50	60%
対売上比	7.0%	2.3%	3.6%		

2016年7月予想値	
通期	差異
(億円)	(億円)
2,100	-30
160	-35
7.6%	
137	-37
6.5%	
100	-25
4.8%	

※ 為替前提は変更なし (1USドル=105円)

## ▶ 下期の事業見通し

- 第2四半期に本格出荷開始した新製品の寄与により、携帯機器向けの売上は大きく増える見通し。自動車、産機・インフラ向けの堅調な成長とあわせ、全社売上は上期に対して大幅な増収見込み
- 売上増および開発コスト改善により上期比大幅な増益を計画



重点市場での売上拡大、開発・生産体制の強化による  
利益率改善に注力



# 1-2. 事業部門別売上見通し

	2015年度	2016年度修正予想			
		上期実績	通期予想	前年比	
	(億円)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)
コネクタ	1,589	799	1,858	269	117%
UIS	80	37	80	0	100%
航機	118	59	125	7	106%
その他	8	3	7	-1	91%
計	1,795	899	2,070	275	115%

# 1-3. 市場別売上見通し

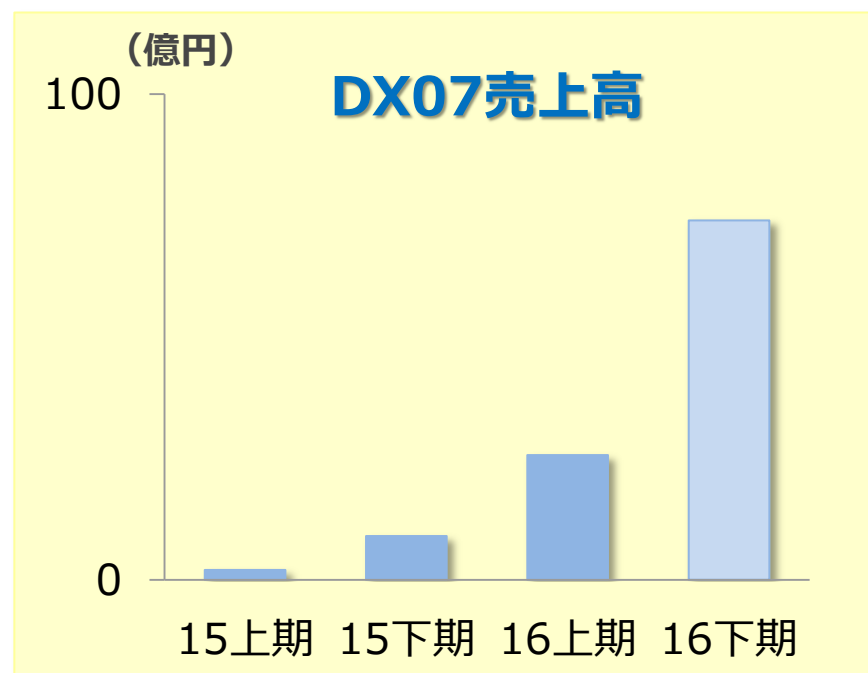
	2015年度	2016年度修正予想			
		上期実績	通期予想	前年比	
	(億円)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)
携帯機器	707	395	990	283	140%
自動車	685	315	670	-15	98%
産機・ インフラ	246	123	260	14	106%
その他	157	66	150	-7	97%
計	1,795	899	2,070	275	115%

## 2. 業績目標達成への取組み ① 携帯機器

▶ DX07、中国スマホ向け、北米顧客向けで大きく伸長

▶ DX07シリーズ (USB Type-C™)

- ラインナップのさらなる拡充
- 主要顧客向け本格出荷開始 (8月～)
- フィリピン工場において、ハーネス製品の量産開始



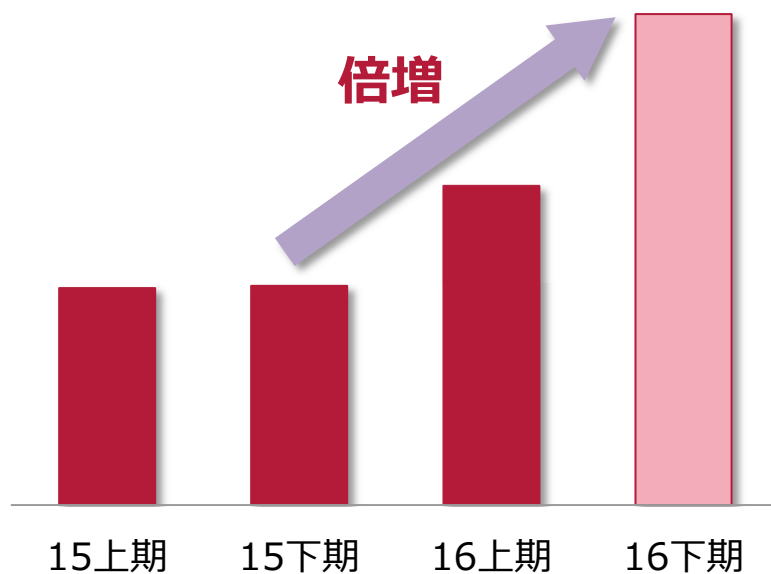
## 2. 業績目標達成への取組み ① 携帯機器

### ▶ DX07、中国スマホ向け、北米顧客向けで大きく伸長

#### ▶ 中国スマートフォン向け

- ・ 現在好調な上位メーカーへの採用拡大に成功
- ・ 下期の売上増に向けて生産体制増強を実施

中国スマホメーカー向け売上高



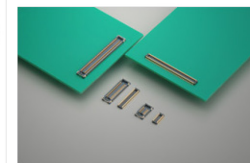
MicroSIMカード用コネクタ  
SF58シリーズ

業界最低背・最小面積クラス



基板対基板用コネクタ

業界最小ピッチ・最低背クラス



WP7シリーズ  
0.4mmピッチ  
嵌合高さ0.7mm



WP25Dシリーズ  
0.35mmピッチ  
嵌合高さ0.7mm  
電源端子付

nanoSIMカード用コネクタ



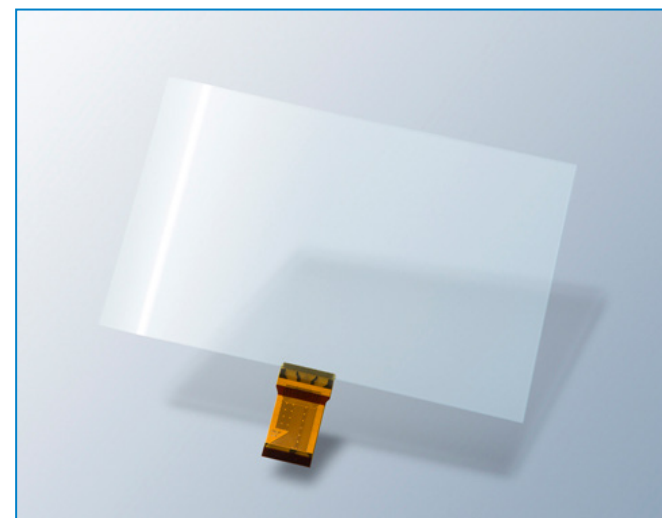
SF70シリーズ等  
業界最低背・  
最小面積クラス

## 2. 業績目標達成への取組み ②自動車

- ▶ **日系メーカー所要の確実な獲得**
  - 新車種向け商談の刈取り促進
  - 日系メーカー海外設計・開発品へのアプローチ強化
  - 車載タッチパネル新製品の顧客内横展開、新規提案推進
- ▶ **欧州市場、中国・アジア市場への拡販継続**
  - 中国環境車向け受注拡大

### 主な新製品（今年度発表・市場投入）

- ▶ **全面透明タイプ**  
**MAMレス・ガラスセンサ「TC230」**
  - MAM（外周部電極）を透明電極化
  - 耐久性、デザイン性を向上



- ▶ 既存顧客でのシェアアップによる売上拡大
  - FA市場でのロボット、サーボモータ、CNC向けコネクタ拡販
  - 通信機器市場向け同軸・光コネクタ販売拡大
- ▶ コネクタ、UIS、航機の各事業での新製品の投入、販売推進

### 主な新製品（今年度発表・市場投入）

#### ▶ コネクタ：

- ・ AOC(Active Optical Cable)「RP04シリーズ」
- ・ 屋外向け小型光インターフェースコネクタ「FO-BD6シリーズ」
- ・ ロボット、サーボモータ向け防水型中継コネクタ「HB01」シリーズ

#### ▶ 航機事業：油田掘削向けDDM

DDM：Digital Directional Modules



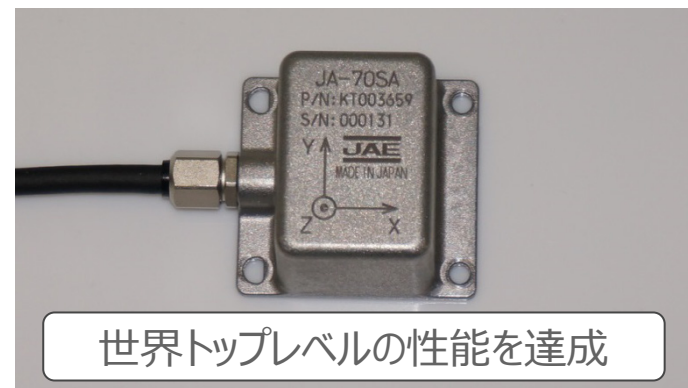
**DDM**  
"Smart DM"

### 3. 中期的成長に向けた製品・技術開発

#### ▶ 3事業のコア技術を活かし、IoT時代に向けた新技術の開発を推進

#### 構造物モニタリング用振動計測システム (軍艦島モニタリングプロジェクトに参画)

長崎県長崎市 端島(軍艦島)



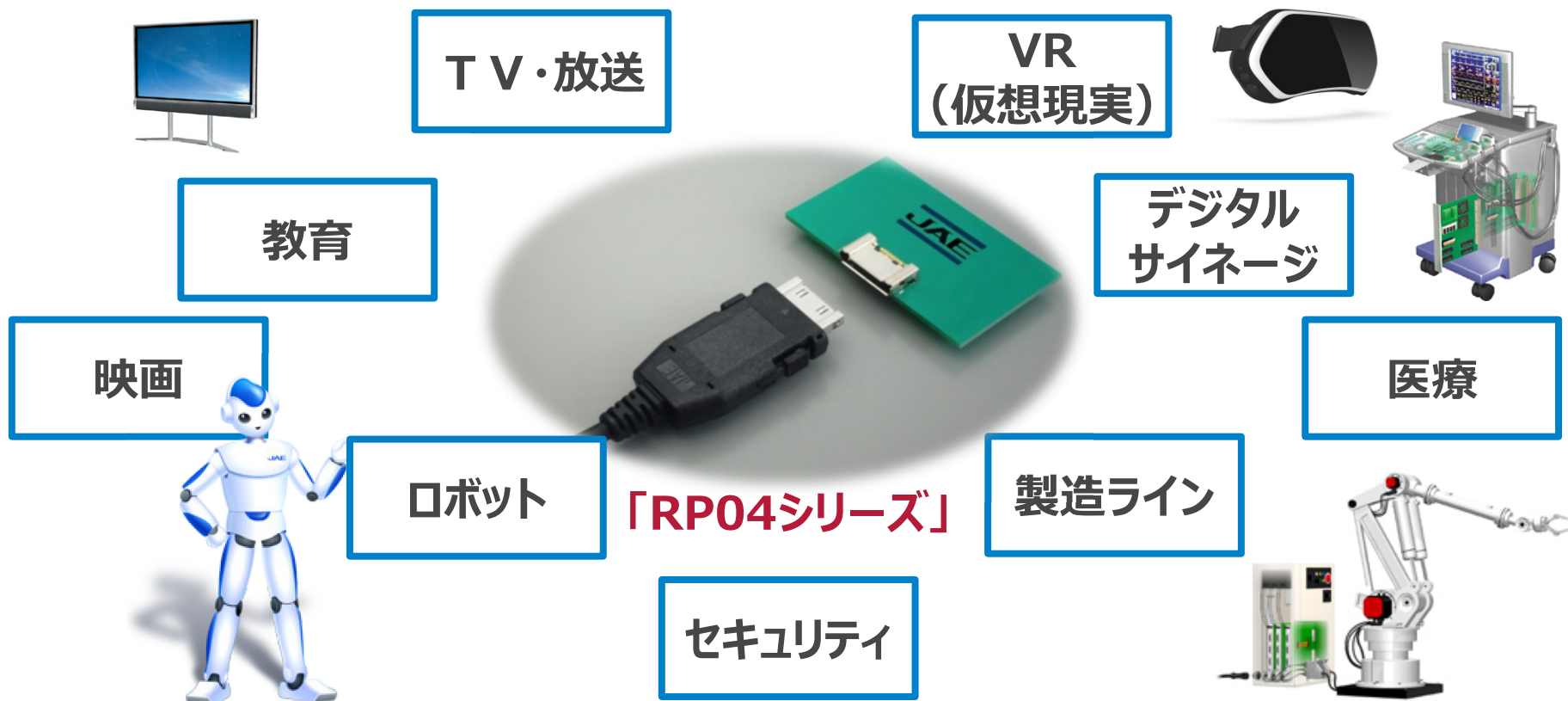
- ▶ 道路、橋、トンネルなどの社会インフラの老朽化対策
- ▶ 傾斜センサや地滑りセンサとして防災・減災分野での活用

### 3. 中期的成長に向けた製品・技術開発

▶ 3事業のコア技術を活かし、IoT時代に向けた新技術の開発を推進

超高精細化（4K・8K）によって広がるAOCの市場

(Active Optical Cable)



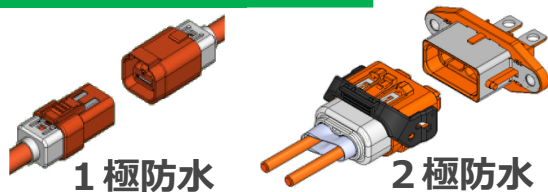


# 3. 中期的成長に向けた製品・技術開発

## ▶ 3事業のコア技術を活かし、IoT時代に向けた新技術の開発を推進

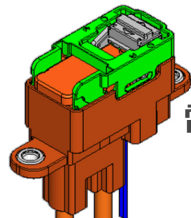
### 環境対応車への取組み

#### 大電流コネクタ・ハーネス



#### 電流センサ

高精度大電流  
検出センサ



#### サービスプラグ

電池システムの電池回路  
遮断プラグ  
(メンテ時、安全確保)

#### 急速充電コネクタ



軽量化と操作性を重視

#### レゾルバ



駆動モータ回転制御用センサ

#### 急速充電 インレット側



急速充電の車載側レセプタクル

Technology to Inspire Innovation

**JAE**

#### <注意事項>

本資料に記載されている当社および連結子会社（以下JAEと総称します）の計画，戦略および業績見通し・目標は2016年10月26日現在の予測・目標であって，リスクや不確定な要素を含んでおります。

本資料に記載されている目標は予想ではなく，将来の業績に関する経営陣の現在の予想を反映したものではありません。むしろ，経営陣が事業戦略の実行を通じて達成しようとする目標であります。

実際の業績は，様々な要因により，見通し・目標等と大きく異なる結果となりうることを予めご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としてはJAEの事業領域を取り巻く日本・欧米・アジア等の政治・経済情勢，市場におけるJAE製品（リフト製品を含む）に対する需要変動，競争激化による価格下落圧力，および競合各社に打ち勝ち供給し続ける能力，海外市場における事業拡大能力，事業活動に関する法規の変更やその不透明さ，潜在的な法的責任，為替レートなどがありますが，これら以外にも様々な要因が有り得ます。世界経済の悪化，世界の金融情勢の悪化，国内外の株式市場の低迷などにより，実際の業績等が経営目標その他の見通しと異なる結果となる可能性もあります。将来予測に関する記述は，その日現在のものであることをご承知おきください。

新たなリスクや不確定要因は随時発生することが明らかなですが，その発生や影響を予測することは不可能であります。また，リスクや不確定要因がある為，将来予測に関して記述されている内容が実際には起こらない場合もあります。これらの記述に全面的に依拠することの無きようお願いします。

	2015年度		2016年度		前同比		前期比	
	上期	下期	上期		15上/16上比較		15下/16上比較	
	(億円)	(億円)	(億円)	構成比	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コネクタ	876	714	799	89%	-76	91%	86	112%
UIS	41	39	37	4%	-4	91%	-2	96%
航機	50	67	59	7%	8	116%	-9	87%
その他	4	4	3	—	-1	78%	0	92%
計	971	824	899	100%	-73	93%	75	109%

	2015年度				2016年度		前年同期比		前期比	
	上期		下期		上期		15上/16上比較		15下/16上比較	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コネクタ	150	17.1%	71	9.9%	64	8.0%	-86	42%	-7	90%
UIS	6	13.9%	5	12.6%	4	9.8%	-2	65%	-1	74%
航機	-8	-15.9%	-2	-3.3%	-4	-6.8%	4	—	-2	—
配賦不能 他	-23	—	-18	—	-22	—	2	—	-3	—
全社	124	12.8%	55	6.7%	41	4.6%	-83	33%	-14	75%

※ 15年度、16年度上期の(%)は売上高営業利益率。

※ 前期比の(%)は伸長率。